

おおぞら学級 自立活動学習指導案

- 1 題材名 自分を知ろうプロジェクト「ぼくってステキ！」
 3-(3)自己の理解と行動の調整に関すること
 (4)集団への参加の基礎に関すること
 6-(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

2 題材の目標

- (1) 児童自身が、自分の課題を自覚し、具体的な望ましい行動について考えることができる。
 (2) 課題解決のための自分の意見を表現し、改善していこうとする意識を高めることができる。

3 題材構成の意図

(1) 児童観

1年1名、3年2名、6年1名の計男子4名の学級である。様々な活動についての見通しをもち、できることは自分でしっかりやろうとする児童がほとんどである。ただ、自分の課題をなかなか自分のものにとらえることができず、望ましい行動を理解しても、実際の生活の中でそれらを常に意識して行動を改善していくのは難しい。

(2) 題材観

この題材は、まず、自分の長所を見つける活動を行う。またその反面、苦手やうまくできないことにも目を向け、課題を明らかにするようにする。そして、その課題の解決策を見つけて実践することで、よりハイパーな自分（自己実現）を目指す題材である。

(3) 指導観

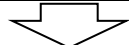
解決策を見出す指導にあたっては、まずは、教師の例示を見せたり、これまでの学習を振り返ったりすることで状況を理解させたい。また、取り上げた状況下でのロールプレイを行い感じることで、具体的な解決策を考えられるようにする。さらに、自分が考えた内容を自分ができそうな表現方法で表現し、それらの内容を元に簡単に話し合い、具体的対応策を見つけさせたい。

4 指導計画 (総時数 8 時間)

時数	指導事項	目標
1	とくいわざ発表会	自分の得意なことをみんなの前で発表し、自信をもつ。
2	よいとこ発見!	自分の良いところを見つけ出し、友達からも見つけてもらう。
3	発見・自分のかだい	長所として選択しない項目から自分の課題に気付く。
4	あいさつ	あいさつする判断や具体的動作を考えることができる。
5	ルールを守る	ルールを守る理由を考え、常に意識する大切さに気付く。
6/8	話を聞く(本時)	話を聞く大切さに気付き、よく聞くための方法を考え、日頃から実行しようとする事ができる。
7	整理整頓	整理のタイミングと具体的な方法を考えることができる。
8	なかよくできる	自分の思いばかりを優先せず、仲よくする方法を考える。

5 児童の実態と本時の目標 (1年1名、3年2名、6年1名、計4名)

	聞くことについての実態	本人の意識	目標
A 1年	話をする人を見て、聞くことが多くなってきたが、自分でも話してしまうことが多い。	話を聞こうと本人は意識しているようである。	集中して話を聞くとともに、途中で話さず、最後まで聞くことができる。
B 3年	発言意欲が高いので、発言を求められると聞くことができるが、そうでないと聞けない。	前に人が立っても、すぐに注目して話を聞こうとすることはできない。	前に人が立って話し始まったら、聞こうと意識を高めることができる。
C 3年	感覚刺激を入れないと、同じ姿勢でいられないので、聞けないことが多い。	前に人が立ったら、すぐに注目して話を聞こうとする意識は育ってきた。	自分の特性と折り合いをつけながら、話す人を意識することができる。
D 6年	興味のあることは聞くが、話が長くなるとイライラして聞けなくなる。	前に人が立っても、すぐに注目して話を聞こうとすることはできない。	前に人が立って話し始まったら、聞こうと意識を高めることができる。



題材を通して育成したい児童の姿

児童自身が自己課題を受け止め、改善策を考え、友達に伝えることができる姿

6 本時における自己課題を自覚し、自己実現を目指そうとする姿

- 話を聞く大切さを理解し、常に話を聞くための具体的な方法を真剣に考える姿

7 本時の研究の視点

【自己の行動を振り返り、課題を自分事として捉える指導の工夫】

- これまでの学習を振り返り、考え方の参考にできるようにする。

【ロールプレイにより実感し考え、自分なりの表現方法で示すことのできる工夫】

- ロールプレイで感じたことや考えた解決策を自分なりの表現方法で発表できるようにする。


8 本時のねらい

話を聞く大切さに気付き、ロールプレイなどを通して、よく聞くための方法を考え、日頃から実行しようとすることができる。

9 本時の学習過程


学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※評価（評価方法）
1 例示を見て、本時課題をつかむ。 (1) 教師の例示を見る。 (2) めあてを確認する。 話をよく聞くためには、どうすればよいか考えよう。	10	○ 話を聞くことができない児童を演じそれを見て意見を言うように促す。さらに困ることはないか問いかける。 ・準備が分からない。 ・やることがわからない。 ○ 話を聞くことの大切さを確認し、めあてを提示する。
2 これまでの学習内容を確認する。 (1) 聞くために大切なこと ・足ぺったん、へそを向けるなど	5	○ これまでに学習した大切なことを想起させる。 ・相手に顔とへそを向ける。・足ぺったん ・おなかと机にグーっ
3 ロールプレイを通して、聞くことができない理由を考える。 (1) ロールプレイ ①ものいじりしながら ②音を出しながら ③別なことを考えながら (2) 今の自分と比べる。 ・物いじり ・別な刺激 ・別なことを考える。	10	○ ①～③の状態を作って、話の内容を聞かせ、実際聞くことができたかどうかを発表させる。 ○ なぜ聞くことができないかを考えさせる。出ない場合はヒントカードを使って促す。 ・物をいじると話に集中できない。 ・別なことを考えると頭に入らない。 ○ できない状況を発表するように促すが、なかなか出ない場合は意図的に指名する。それでもできないときは、絵カードを示す。
4 聞くための対策を考え、練習する。 (1) どうすればよいかを考える。 ・自分に合った発表方法を選ぶ。 (2) 話し合っ、対策をまとめる。 心を向けて話を聞く。	15	○ 自分で書く、見本を見て書く、イラストを使うなど自分で選択できるようにする。 ・ 初めに確認したことの確認 ・ 集中する。 ※ 自分の表現方法を選んで発表できたか。(発表) ○ 質問や、さらに考えた意見を話すように促す。 ○ 気持ちに目が向けられるように、イラストなどを示して、まとめの方向性を示す。 ○ 「心を向けて聞く」ことを意識して、聞く練習をするようにする。
6 ふりかえりをする。 (1) 自己評価カードを書く。	5	○ 自己評価カードを記入するように促す。 ○ 発表するようにする。

7 板書計画



はなしをきく

① 物いじりしながら
② 音を出しながら
③ 別なことを考えながら



⇒

④ 話をよく聞くためには、どうすればよいか考えよう。

⑤ 心を向けて話を聞く。

1 見る。めあて
2 大切なこと
できてないこと
3 ロールプレイ
4 話し合い
5 まとめ、練習
6 ふりかえり